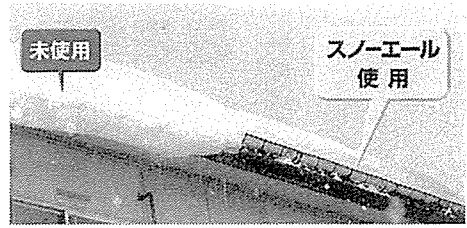


ボネイトの波板から構成され、アルミの熱伝導特性により日中は軒先の融雪を速める。標準タイプ



「エール」

年内検証 「度揺るぎなし」

ルギー設備の接続申請に「回答保留」を打ち出し、基調講演はこの話題が中心。「原稿締め切り後に急ぎ変更、配布資料と講演内容が異なる」、「全電力に占める再生可能エネルギーはわずか2%。この段階で接続できないとは想定外」と専門家も驚きの様子。

保留中。太陽光設備の申請急増に対して「電力を安定供給する」目的で。下村代表理事は冒頭、「系統インフラ(電力網)のあるべき姿に関して議論すべきで、FITを根本から見直すような極端な議論は避けてほしい」と訴え、来賓の資源エネルギー庁も「再生エネを増やす基本計画は変わらない。FITの課題には真摯に向き合うが、制度そのものに疑問は持っていない」と話した。東京大学の松村敏弘教授は将来の電力自由化を見据え、「電力会社の接続

可能量を第三者が判断する仕組み」、「FITの卒業戦略」、「買取価格の札制度」など提案。また日本再生可能エネルギー総合研究所の北村和也代表も「FITで再生エネが増えたのはよいこと。スペインは再生エネの割合が5割近く、ドイツも3割近く。接続問題をキチンと考えるチャンス」と話した。また各電力会社の連系容量(電力網能力のピーク量に対する割合)や電力会社間の連系、揚水発電で二系統にはかなり余裕がある」と話した。

こうした指摘に対し資エネ庁は、9月30日に電力会社の系統問題を検討する小委員会を設置したと報告。接続可能量の検証と拡大をテーマに、年内に取りまとめる予定とした。

九電が低圧再開 9月24日分まで 九州電力は10月21日、50kW未満の発電設備に関して、9月24日までの申し込み分の回答保留を解除すると発表した。住宅などで発電する「個人の事業者から」保留解除の意見が多かったという。

石州瓦工業組合(佐々木賢一理事長、8社)は10月26〜28日まで、群馬県屋根瓦工事組合連合会青年部(小林剛士部長、25名)から11名の参加を得て、「石州瓦ツーリズム」を実施した。石州瓦ツーリズムは、

銀山世界遺産センター、大森銀山の重要伝統的建造物群保存地区の石州赤瓦の町並みなどを見学したほか、瓦工場の視察も行った。仕事で石州瓦を使うこともあるという青年部の小林部長は、研修旅行を振り返って「行政とともに石州瓦の町並み景観形

成に取り組んでいる産地はずいぶん。産地の人たちもとても親切だった」と感想。



グラントワで=石州工組提供

笠木下換気部材 「アンタレスミニ」 ハウゼコがGマーク 金属製建築材料の製造販売業、(株)ハウゼコ(本社・大阪市、神戸臨史社長)が開発、販売する笠木下換気部材「アンタレスミニ」(写真)が日本テ

三州のCA会(杉浦英行会長、17名)は10月24日、愛知県陶器瓦工業組合で武道教育研究者、風間健氏の講演会「誕生の使命感 今あなたは何をすべきか」を主催、原士、白地、機械、釉薬など関連メーカーを含め、約50名が参加した。杉浦会長は昨年5月の会長就任時に「さまざま

三州産地のいぶし瓦メーカーや鬼瓦製造業、屋根工事業らで構成する三州瓦伝統技術保存会(鈴木幸利会長、32名)は10月21日、高浜市の竹善で第10回通常総会を開催、任期満了に伴う役員改選で全役員が再任された。このほか26年度も研修旅行を行うことなど決めた。

鈴木会長が再任 三州伝統瓦が総会 ザイン振興会の2014年度グッドデザイン賞(Gマーク)を受賞した。作品分類は「住宅・住空間向けの工法」。アンタレスミニの発売は12年4月で、製品の仕様は全長1820mm、重量1kg/本。

長く愛されるブランドだけが、本物のブランドになる。

い 伝 統 源 本 音 瓦と瓦が相互を押さえこむ、ダブルロックシステムにより、耐風・耐震力・防水性がさらにアップ。 8×9寸判・9×尺判